

Management Club Report

Jan.2005/Vol.25

Monthly Opinion ハイテク機器のサービス化活用

歯科界に巣くう封建体質

職業に上下貴賤の別はないにも拘らず、「歯科医師は技工士よりも上位に存在する」ように見受けられます。歯科医師対歯科衛生士の関係にも見られる歯科界に古くから存在する“身分差”です。「身分」という表現はいささか時代錯誤でもあり的確ではありませんが、永年歯科界で仕事をしてきて感じることは、歯科医師とコ・デンタルとの間には暗黙の差異が厳然として存在するということです。

それは医師対看護師という関係にも見られるように、歯科だけではなく医療界全体に存在する一種独特の「封建的体質」です。小説やドラマの中だけでしか知りませんが、教授を筆頭にした大学病院の医局の構成は、まさに“土農工商”そのままであるようにすら思えます。

職種による身分差ではありませんが、同じような体質を歯科大学の同窓会にも感じることがあります。いずこの歯科大学でも同窓会組織が大変しっかりしています。単一学部の単一学科で一学年 150 名程度の少人数、そしてほぼ全員が同一職業というまとまり易さのせいもあるでしょうが、一般の大学を出た人間の目には「比類なき強固さを持った組織」として映ります。

会としての活動の活発さもさることながら、先輩後輩の上下関係の“けじめ”は一般大学の運動部以上という印象すらあります。最近の大学運動部は上級生下級生の関係も比較的フラクナようで、「学年が1年違うだけで絶対服従」というような風潮が残っているのは医科歯科系の大学だけとなったのではないのでしょうか。

このような歯科界に存在する「職種や学年による上下意識」は、歯科医院経営にどのような影響を与えているのでしょうか。歯科医院という組織運営に好ましく作用しているのでしょうか、それとも反対に作用しているのでしょうか。歯科界に巣くう封建体質と経営活性化との関連について考えてみたいと思いますが、それに先だつてまず、歯科医院を活性化する上で必要なことと、目に見えて存在する阻害要因について述べておこうと思います。

見当違いの「増患対策」

全国には「構造不況」と言われるような不活性状況に陥ってしまっている歯科医院が数多く存在します。業績を好転させるための有効な手立てを講じられないまま中々浮上できずに苦しんでいます。

そのような状況を脱するために採られる方法は、ほとんどが休診日の返上や